宇治山田市及鳥羽町詳細新地圖

三重縣度會郡長　今村眞橘君
宇治山田市長　北川一短君
鳥羽町長　押田素君
關校君
關校君
關校君

不許複製

著作權所有　明治四十四年十二月廿五日印刷
明治四十四年十二月廿八日發行
著作兼發行者　三重縣宇治山田市大字山田町百十七番地　鈴木長之輔
發行所　三重縣宇治山田市大字山田町百十七番地　鈴木東京堂
印刷所　東京市芝右門前町久保町百八番地　吉野貞治
印刷者　東京市芝右門前町久保町百八番地　精美堂
定價金拾錢

兩宮及び別宮神宮年中諸祭典日時

兩宮及び別宮

內宮　天照皇大神（相殿神）を祭る神殿也。天下萬祭の義也。

外宮　豐受大神（相殿神）を祭る殿也。

別宮　相殿の殿なり。其神名は諸殿區々たるを以て略す。

神宮年中諸祭典日時

歲旦大御饌　一月一日　午前八時

雄略天皇遠拜式　一月三日　午前八時

紀元節大御饌　二月十一日　午前八時

神武天皇遠拜式　二月十一日　午前八時

神嘗祭　十月十五日　午前八時

神衣祭　六月十四日　午前七時

御卜祭　六月十四日　午前七時

興玉祭　六月十四日　午前七時

風日祈祭　八月十日　午前七時

月次祭奉幣　十月十日　午前十時

月次祭ノ大御饌　十月十日　午前十時

元始祭大御饌　一月三日　午前七時

元始祭奉幣　一月三日　午前七時

元始祭ノ大御饌　一月三日　午前七時

元始祭御神樂　一月三日　午前七時

新嘗祭奉幣　十月十五日　午前一時

新嘗祭ノ大御饌　十月十五日　午前一時

新嘗祭御神樂　十月十五日　午前一時

興玉神祭　十月十五日　午前一時

御卜祭　十月十五日　午前一時

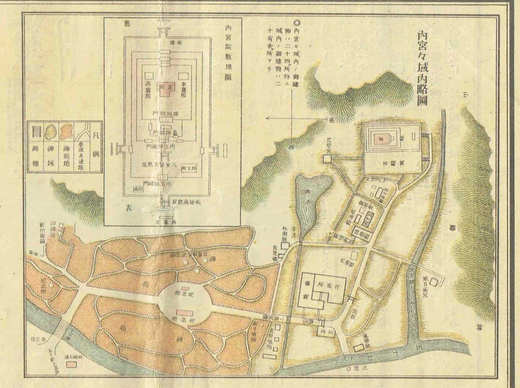
御衣祭　十月十五日　午前一時

月次祭奉幣　十月十五日　午前十時

月次祭ノ大御饌　十月十五日　午前十時

月次祭御神樂　十月十五日　午前十時

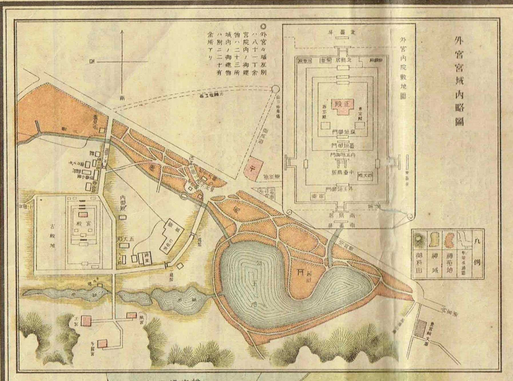
月次祭奉幣　十月十五日　午前十時

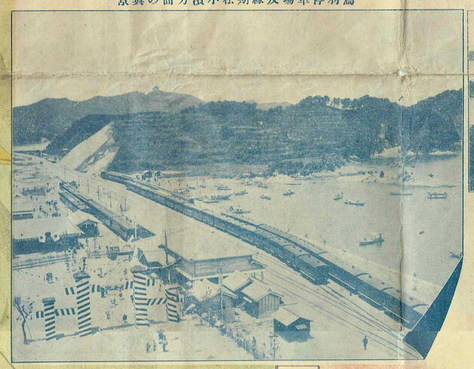


神宮司廳の門前

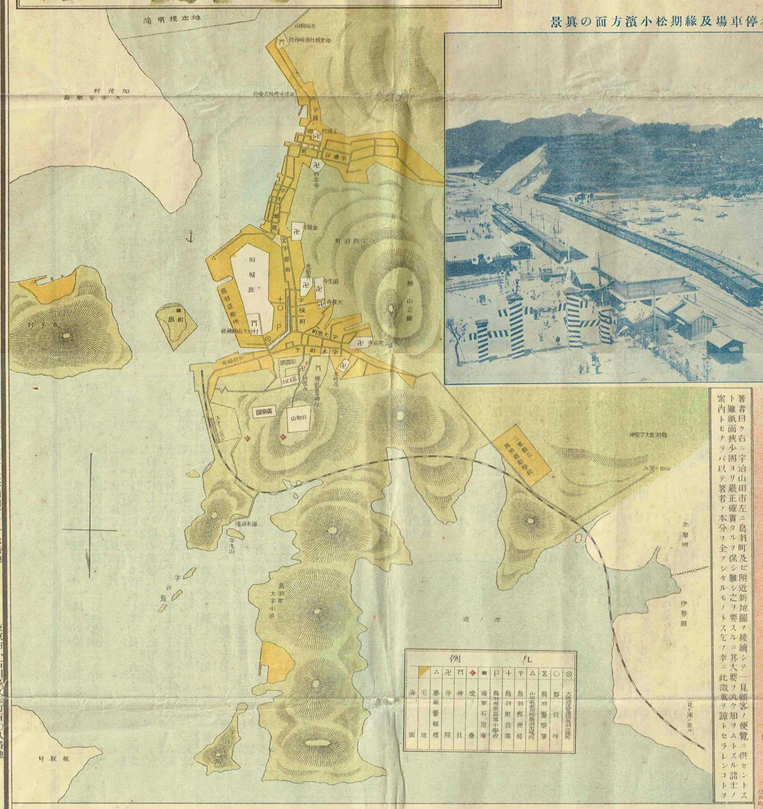
二見浦の日の出

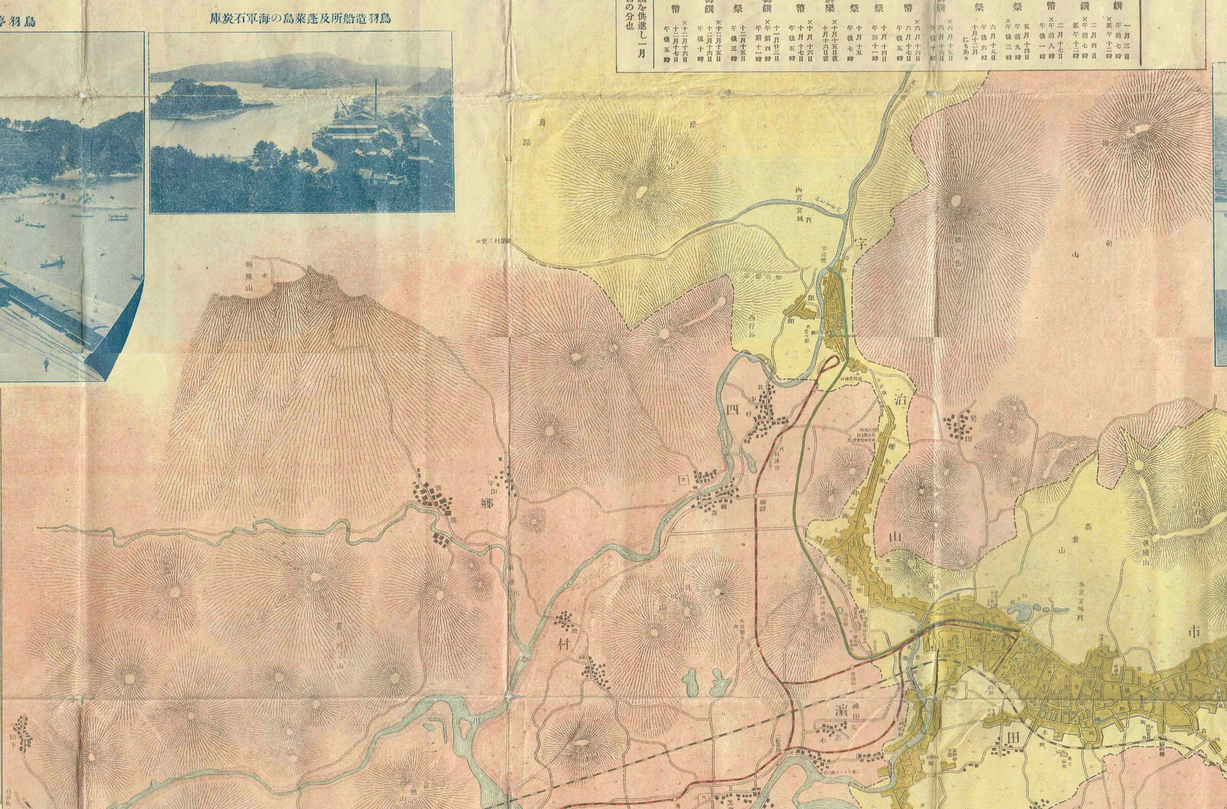
二見浦に於ける神嘗祭時の出船の光景




鳥羽停車場及線路小濱方面の眞景

鳥羽造船所及蓬萊島軍艦石炭庫





宇治山田市勢概略

市名	宇治山田市役所	宇治山田市大字岡田
位置	西經	北緯
面積	三平方里九五	三〇〇〇
現住戶數	四萬一千五百三十四	三萬一千七百二十八
戶數	男	女
	一五、三三一	一八、八〇七
計	三〇、六三〇	三七、四四七

官公署

名稱	位置
神宮司廳	岩淵町
神宮會計部	岩淵町
神宮營繕部	岩淵町
古市郵便局	古市町
古市郵便局	古市町
山田郵便局	大世古町
河崎郵便局	河崎町
下中之郷郵便局	下中之郷町
河崎郵便局	河崎町
山田郵便局	山田町
浦田郵便局	浦田町
惡志郵便局	惡志町
五十鈴川郵便局	岩淵町
安濃津監獄出張所	岩淵町
宇治山田警察署	岡本町
宇治山田警察署	岡本町
宇治山田裁判所	岡本町
宇治山田市役所	岡本町
宇治山田市役所	岡本町
宇治山田市役

參宮便覽 付二見鳥羽案内

序

我が伊勢の神宮に詣する人數の年毎に多きを加ふるは勿論神國の風儀として神を敬ふの心念の厚きに帰しといふべしと雖も其方角に於てかは詣ずれんとする人の多かん事疑なし此等賓客の爲に宇治山田市街及び鳥羽市地圖付參宮便覽鳥羽案内なるもの、必要を認め茲に左に録せむ。

【一】 伊勢の國名の起り並に國造の始

神武天皇の都を州で定めて宝トし給ひ、天下別命を勅を奉じて、東方を巡めとせしに伊勢津彦命に從はず即ち兵を發し之を伏す天皇、大命に敵び、詔して國神の名を取り、伊勢の國と號し、天日別命に賜ふ。之より子孫代々、伊勢の國造に任じたりける。（神武紀上巻）

【二】 皇大神宮御鎮座

倭姫命、垂仁天皇の詔を奉して、大御神を戴き奉り、請國を巡幸して、大倉を覓ぎ給ひ、宇治の五十鈴の川上に、鎮り奉らせ給ひたり。これ皆、垂仁天皇の二十六年九月十七日の夜明なり。（皇元六五七）

【三】 豐受大神宮御鎮座

雄略天皇、大御神の夢に顕れ給ひ、此宮の御饌奉れと、宇治の山田原より迎へ奉り、山城、近江、伊賀の國々を經て、雄略天皇の二十一年九月の日に、山田原の大宮地に鎮り奉らせ給ひたり。即ち紀元千百三十八年にして、皇大神宮御鎮座より、後ること四百八十二年なり。

【四】 宇治山田市

此の地は、紀伊、宇治と田一郎が別れ居しが明治二十二年に合して宇治山田町となし明治十九年九月、最も市制を施行せり。

○山田市は、參宮客の分れ道にして、宇治の方に、翠緑鮮やかなる、倉山を、左に出づれば、町より河崎町方面に通ずべし、更に正面の向に一歩を、左に進めば、直ち、山田駅に到る。即ち、電車、電話、郵便局、警察、紙屋、旅館、料理屋、商店、銀行、郵便局、等、軒を連ねて、成街道の為、繁盛なる、市街なり。

○清廉橋は、橋を渡りて、四十年前に在り、今、嘗勅使として、參向せし時、其の枝、冠に除りしを、以て其名あり。

○一鳥居、外宮第一の鳥居なり。故に、古より兵仗等を携へ、入ることを禁せらるる所。

○二鳥居、此の鳥居は、一鳥居を過ぎて、參道の右に在り。

○賓館、祭典の時、神官の齋館する所なり。

○神楽所、二鳥居の西に在り。

○三鳥居、此の鳥居は、一鳥居と、並に、勅使以下の一行を、清むる大麻、御鹽の行事あり。又、皇族の下馬、下乗も、此の所なり。

○御神樂殿、參道の右に在り、衆人の志願により、御神樂を奏し、御饌を、大麻接典の所、御神樂殿の西に在り。

○御手洗、參道の南に在り、清流、此に、流れ、御手洗を、清む。

○五丈殿、五丈殿の北に在り、神儀の祭典には、二鳥居の行事、忌火屋殿前の行事、玉串行事の所。

○玉串行事、玉串を取り、所なり、此所に、月次、神饌、祭典、の、行事あり。

○中重、鳥居、外宮の別宮、多賀宮、土宮、月夜見宮、の、中重と、神宮の、中重と、神宮の、中重と、神宮